

〈原 著〉

歯磨剤の口腔粘膜および舌に対する影響

岡本揮公彦,^{*1)}池田祐三,^{*1)}杉原邦夫^{*2)}
吉川博文^{*2)}鍋嶋詢三,^{*3)}伊藤芳子,^{*3)}平山 章^{*4)}

Influence of Toothpaste on Oral Mucosa and Tongue

Kikuhiko OKAMOTO,^{*1)} Yuzo IKEDA,^{*1)} Kunio SUGIHARA,^{*2)}
Hirofumi YOSHIKAWA,^{*2)} Zyunzo NABESHIMA,^{*3)} Yoshiko ITO,^{*3)}
Akira HIRAYAMA^{*4)}

(Received November 8, 1983)

Abstract

Effect of toothpaste on oral mucosa and tongue was studied in hamster or rat. No histological changes of epidermis were observed under the condition of three minutes contact of three times diluted toothpaste solution to the cheek pouch of hamsters.

Histopathological changes of tongue and taste bud were not induced by one or ten times contacts for three minutes of three times diluted toothpaste solution to the tongue of rats.

要 旨

歯磨剤の口腔粘膜および舌に対する影響をハムスターおよびラットを用いて検討した。

ハムスター頬嚢に対し、歯磨剤の3倍希釈液を3分間接触させたが、組織学的には角層の膨化および剥離などの所見は認められなかった。一方、ラットの舌背に上記と同様の方法で3分間1回または10回接触させたが、舌組織および味蕾に、組織学的変化は認められなかった。

は二見ら²⁾および吉川^{3),4)}の報告があり、二見らは特定のヒトにみられる歯磨剤使用後の口腔粘膜剥離の原因はおもに界面活性剤であると述べ、さらに歯磨剤中の香料はそれが界面活性剤と共存した時にのみ粘膜剥離に寄与していると報告している。また吉川^{3),4)}は組織学的な検討の結果から、口腔粘膜に対する歯磨剤の作用においては、炎症と剥離とは区別して考える必要があることを示唆している。

今回、著者は歯磨剤の口腔粘膜に対する作用を更